

こえに だして よみましょう。

かにのしょうばい③

新美南吉
にいみなんきち

蟹かには、そこで、山やまへやっていきました。山やまにはたぬきがひるねをしていました。

「もしもし、たぬきさん。」

たぬきはめをさまして、

「なんだ。」

といました。

「とこやですがごようはありませんか。」

たぬきは、いたずらがすきなけものですから、よ

くないことを考かんがえました。

「よろしい、かってもらおう。ところで、ひとつや

くそくしてくれなきやいけない。というのは、わた

しのあとで、わたしのお父おとうさんの毛けもかってもら

いたいのさ。」

「へい、おやすいことです。」

そこで、蟹かにのうでをふるうときがきました。

ちよっきん、ちよっきん、ちよっきん。

